

ボランティアの心

理不尽！ 7歳の子が脳腫瘍

私はずっと「ボランティア」について興味もなく、無関心で過ごしていました。ところが、在学中に何故か「子供の学習支援」の立ち上げに関わることに。 「学習支援」の立ち上げ時の趣旨はあくまで「学習」をと考えていましたが、各学校からの支援要請は「特別学級への支援」が大半。「特別学級って?」。何の知識もなく、障害(知的、心的、身体的)という病気のある児童への支援には不安を感じた事を思い出します。リーダーの趣旨説明に理論的には必要な事だと理解したが、実際に行動に移すには時間がかかりました。卒業4年後、理科の実験ボランティア(2年間)をしていた小学校でやっと特別学級支援への一步を踏み出しました。「障害という病気には同じ症状はない。一人一人の個性と考えてください」と教えいただき、週1回1~5時限迄の支援が現在まで8年間続いています。特別学級の児童たちは「自分だけを見て見て」という感情が非常に強く、学校での存在の薄さを感じ、心が痛みます。鮮明に記憶に残っているのは、平成26年4月、M君が入学、短かっ



たけれど一緒に時間を持てたことです。M君は元気に幼稚園生活を送っていましたが、小学校の入学前(25年12月)病気が発覚。脳腫瘍。手術。4月末から車いすでお母さんと一緒に小学校生活をスタートしました。丸坊主の本当に可愛いM君でした。本の読み聞かせ、たくさんの友達と一緒にの教室で、手を添えて絵を描き、運動会の練習を応援し、音楽会の練習では私と一緒に鈴でリズムを

とり、一生懸命頑張りました。7歳の誕生日にはたんぼぼ学級のみんなでお祝いもしました。徐々に体力が落ちてゆくM君をお母さんは本当に強い強い愛で見守っておられました。その姿に唯々頭が下がり少しでもお役に立ちたい気持ちで一杯でした。わずか7歳の子に、この試練は辛すぎ、理不尽だ

なぁと痛感しました。10か月足らずの短い間でしたが、私の長い人生の中でも特別な経験でした。ボランティアとは「何かしらお役に立てた。ありがとうって言ってもらえて良かったと思えること。まだ自分を必要としてくれる人がいると喜べること」そして「ありがとう」と言えることだと思います。最後に、愚痴も言わず私を最寄り駅まで送り迎えをしてくれる主人を初め、ほかの多くの人々に支えられて生きているのだと改めて思いました。(長谷川 雅江 福9)

水博イベント できた! キティちゃん

〈わ〉と遊ぶ バーニングアート

水の科学博物館の夏のイベント「ものづくり、〈わ〉で遊ぼう」が8月2日から14日まで開かれました。花実の森プロジェクト、ケナフの会、たんすの肥やし、楽遊クラブ銀雅、むかしあそび研究会、木工グループ、うらしまたろう、野草クラブ、里山和楽会、KSCマジッククラブのほか竹細工有志が参加しました。



8月3日は花実の森のバーニングアート。井口久美子、橋野美子、俵貴志子、田路義弘さんが親子連れらに作

り方を教えました。まず、サンプルの中から好みの絵を選び、その上にトレーシングペーパーをのせて鉛筆でなぞって下絵を描きます。次に、写し取った下絵を板にのせ、テープで固定。下絵と板の間にカーボン紙を挟んで図案をなぞり、板に写し取ります。板の図案を電熱ペンで焦がせると出来上がりです。板に直接、絵やサインを描き、電熱ペンで焦がす人もいます。

キティちゃんを描いた7歳の女の子は「できた!」と叫び、にっこり。スタッフも「ワー、うまい!」とほめます。女の子は「力をいれすぎて指が痛い。疲れた」とお母さんを振り返り甘えていました。

(写真と文 広報・永野知己)

マジックの祭典 11月13日開催 KSCマジッククラブ (OB) KSCマジック同好会 (学生) 共催で、第14回マジックの祭典を11月13日、村内のたんぼぼの家大ホールで開催します。午後1時開演。約3時間、妙技を披露します。入場無料。